

上のおじちゃんのみかん

神奈川県湘南白百合学園小学校

五年 深川 夏菜子

「宅配便でえす。」

「やったあ！ みかんがとどいたあ！」

毎年、十月の初めごろに、緑色の取りたてのみかんが、我家にやって来る。

『上のおじちゃんのみかん』と私達は呼んで毎年心待ちにしているのだ。愛媛県に住む祖父のお兄さんが、みかんを作っていて、わざわざ小田原市まで送ってくれるのだ。

そのみかんの木は、先祖代々のお墓のそばにあつて、何年も何年も、お墓を風や大雨から守ってくれている。春は緑の葉がしげり、夏は白いみかんの花を咲かせ、その後にかわいい実をたくさん実らせる。その実は、毎年、少しずつ酸味や香りがちがったり、大きさや色も変わる。まるで、人間と同じように、手をかけた分だけ、甘くなったり、おいしくなったり、するのだそうだ。あたたかい太陽の光をたっぷり浴びた実は、オレンジ色で、つやつやと光り、甘くてジューシーなみかんになる。でも、少し影で、あまり光のあたらない場所で育った実は、緑だったりうすいオレンジでつぶも小さかったりする。少しさみしい感じのみかんになる。きつと、そんなみかんは、大きなオレンジのこいみかんとならべられると自信がなく影にかくれていたくなるんだろうな…と思う。でも、私はそんな緑色の小つぶのみかんが大好きだ！すっぱくてみんなが手にとつてくれなくても…。

今年、『上のおじちゃん』が亡くなった…。きつとみかんの木は、『上のおじちゃん』のお墓のそばで、緑の葉をしげらせて強い雨や風から守り、みかんの花の良い香りで包み、かわいい実を見せて守っていてくれるだろう。これからもずっとずっと、私達は、『上のおじちゃんのみかん』を楽しみに十月をむかえるのだ。

みかん！ 大好き！